

台東育英

台東区立台東育英小学校

統括校長

<https://www.taito.ed.jp/131022>

No. 9

「日常」の積み重ねが成長の礎に

副校長

寒冷の候、今年も残すところあとわずかとなりました。深まる秋の気配は瞬間で、寒さが厳しく感じられます。さて今は、文化的行事である12月の展覧会に向かい様々な準備を進めているところです。2学期の運動会や展覧会など行事に対して努力することは、子供たちにとって大切な成長の機会です。しかし、さらに大切なのは、「その先」にある子供たちの姿です。行事の成功とは、本番の出来栄だけでなく、行事を終えた後の子供たちの「日常」に現れます。行事を単なる「目的」として捉え、その場限りの「無理な力」で必死に取り組んだだけでは、行事が終わるとすぐに元の姿に戻ってしまうものです。

先日、4年生の寄席演芸鑑賞教室を引率しました。子供たちに向けて、寄席での裏方の仕事を説明していただき、一つの演芸の成功に向けてサポートしている人々がどんなに多いかを実感しました。けして、表舞台には出てこない人々がたくさんいるのです。

さて、今回の展覧会では、立候補した「展覧会実行委員会」メンバーの活動がこの展覧会を支えています。テーマを考えたり、学年表示やプログラムの作成をしたりする等、休み時間を使って活動をしています。また、今回、保護者鑑賞日では「展覧会ガイドクルー」も登場します。

学校生活の様々な場面で、見えない部分を支えている人・物にも思いを馳せられる児童になってほしいと、行事を通して強く願っています。

～ お知らせとお願い ～

《お出迎え・お見送りは校門内で》

登下校でのお見送りやお出迎え、誠にありがとうございます。実は、児童が、校門前のガードレールに座ったり、寄りかかったりすることによりランドセルの重みで、頭部より転倒してしまう危険を学校側は危惧して、これまで学級指導を重ねております。そこで、保護者の皆様にもご協力いただき、校門前のガードレールではなく、ぜひとも、校門の中に入っただき、植物プランターのある両サイドでお待ちいただけますよう、お願いいたします。道路交通法上、ガードレールには、「注意」の掲示をすることができないため、教職員からもお声かけをすることがございます。

《12月より、スクリレのみの受信・配信につきまして》

この度、Sumamachi（スママチ）のサービス終了（令和7年12月末）に伴い、スクリレへと新たなシステムが導入され、保護者の皆様には、登録へのご協力をありがとうございました。11月はスママチとスクリレの両方より受信・配信していましたが、12月より、スクリレのみの配信といたします。保護者の皆様におかれましても、欠席／早退／遅刻 連絡もスクリレのみでお願いいたします。

特色ある教育活動

特色ある教育活動担当

本校では、「基礎学力の定着を図り、児童一人一人の個性や能力を伸ばす。」「家庭や地域との連携を深める。」ことを目的とし、特色ある学校づくりを行っています。

学習面での取り組みとしては、まず、まなび教室を行っています。週に1回、学年ごとに曜日を決めて、学力向上推進ティーチャーが児童の学習内容に沿った課題を用意し、難しい問題や躓きやすい問題を丁寧に指導しています。子供たちは問題が解けるようになる楽しさを感じながら、集中して取り組んでいます。

その他にも、漢字・算数検定や家庭学習週間など、学力向上に向けた学校全体での取り組みを行っています。算数検定では、採点後に学年ごとの課題分析を行い、校内で共有し、授業に活かすようにしています。

地域との連携では、生活科や総合の学習で、地域を探検したり、地域の方を招いて交流したり、歴史や文化を学んだりしています。学校と地域が一体となった教育活動を行っています。

様々な経験により、子供たちの豊かな人間性や社会性を育んでいきたいと考えています。今後もご家庭でのサポートをよろしくお願いいたします。

展覧会によせて

図工専科

日頃より本校の図画工作科活動にご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございます。12月5日（金）6日（土）は本校の3年ぶりの展覧会です。

図画工作科では、表現や鑑賞の活動を通して、形や色などと豊かに関わる資質、能力の育成を目指しています。大切なことは図工の活動の中で、自分の体、感覚をはたらかせ、自分らしい表現や良さを見付けることにあります。それは誰かが与える答えを目指すものでも、見本に忠実に真似てつくることでもありません。上手に何かをつくることよりも、子供たち自身が材料や用具に触れて感じたことを大切に、考え試しながら自分なりのものの見方や感じ方を育むことを目指しています。また、図工は活動の中でうまくいかないことや失敗することが許される教科でもあります。こういった時間こそが、実は現代の子供たちにはとても重要なのではないのでしょうか。

6年生の展覧会実行委員が、今回の展覧会テーマを「見つけよう 広げよう わたしたちの世界」と設定した中にも、造形活動で得た楽しさや新しい考えを自分の成長につなげようとする子供たちの気持ちが反映されていると感じています。今回の展覧会をぜひ鑑賞いただき、普段子供たちの中に広がる思いや感動、子供らしい気付きやのびのびとした表現に触れていただければ幸いです。